

福岡県飯塚市幸袋 築120年古民家『聴福庵』 2017年のあゆみ⑦

第32号 2017年10月9日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢

砂鉄壁講習会

2017年9月23日(土)～24日(日)

床の間砂鉄塗り & 砂鉄壁講習会

明治から大正時代に塗られていた壁で砂鉄を蕨粉(ワラビ粉)で
塗り固める技法の講習会が行われました。

会場となった『聴福庵』には、左官職人さん方が集りました。

左官職人 熊本 緒方建設工業 荒木 新二氏

聴福庵の床の間を仕上げたのは、荒木新二さんです。

左官技能の日本一を競う『第46回技能五輪全国大会』で金賞を受賞
した高度な技術を駆使し、様々な工事を請け負っているそうです。

「中学卒業後に、やりたいことがなかったため、軽い気持ちで実家が
営む左官業の道に入ったのですが、先輩職人たちの左官仕事に感動し、
徐々に魅せられた。左官仕事の魅力は、色褪せない良さがあるという
か、朽ちていくほど良いというか、そういう味があるところなんですよ
ね。

10年後、20年後と時間が経ったときに、どのような仕上げになっている
のかが重要で、建物とマッチしている姿、木材と同じように朽ちてい
る姿が、日本家屋がもつ本来の美しさですからね。

ですから左官仕事は完成がゴールではなく、完成してからがスタート
なんです。完成して満足してはいけませんよね。」と言います。

(匠の蔵～words of meister～の放送 2013年6月22日より引用)

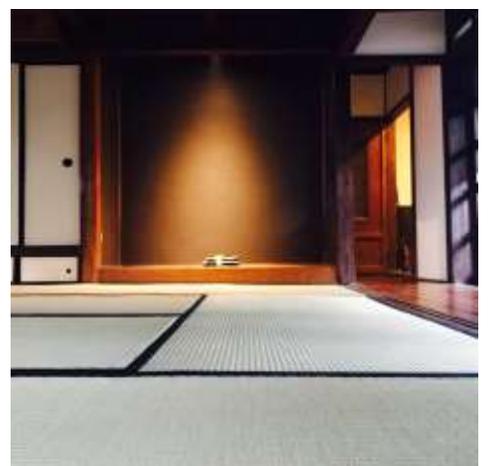
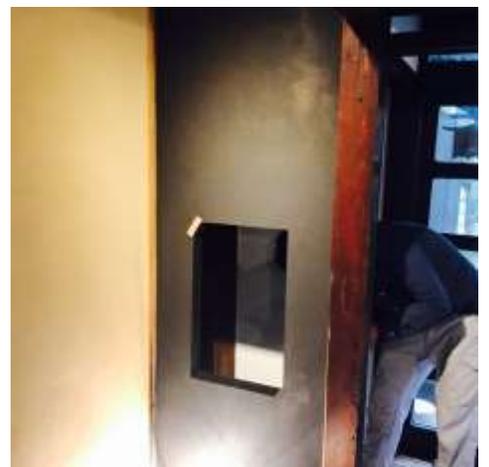
関連サイト: Youtube [『第46回技能五輪全国大会ダイジェスト』](#)



右: 原田進さん (荒木さんの親方)

中: 聴福庵当主 野見山

左: 荒木新二さん





2016年4月 before



2017年9月 after

聴福庵を通して感じること

いつもお世話になっている大工の棟梁は、砂鉄塗りされた床の間を見て「どこから見ても鏝の跡がない、きれいだ」と言ったといいます。

そして、左官職人の[コテ山さんのブログ](#)に床の間を塗る荒木さんの姿を見て「これマジで、無茶苦茶かっこいいっす。」とありました。

同じ左官職人が見ている中で、鏝一つで仕事をする左官職人にとって、文字通り『小手先』では通用しないことを感じます。

『聴福庵』当主の野見山は「親方は、あえて彼にさせたのかな。真剣に打ち込む姿には、心打たれるものがあった」と言っていました。

当日、講習会の場に私はいませんでしたが、上記の声を聞くだけでも、自分が思っている以上の素敵な時間が流れていたことを感じます。

子どもたちは泥だんごを作ったり、砂遊びをよく好んでしていますが、その究極の美や技術が左官という仕事だと思うのです。

『聴福庵』と呼ばれるはるか昔、幸袋の地に居を構えた頃、同じように床の間を仕上げた名もなき職人さんは何を想ったのでしょうか。

「この『トコ』という響きは、『トコシエ（永久）』、『トコヨ（常世）』と同じ音を持ち、古来から「永遠」という意味で語られる」と、『聴福庵』当主の野見山は言います。

『聴福庵』の床の間（永久の間トコノマ）で、次代の左官が何を感じ、どんな想いを馳せるか分かりませんが、『聴福庵』がある限り、技術も伝承され続けると思うのです。永遠に。

（報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢）

●過去のバックナンバー

第29号

第45回保育環境セミナー前編

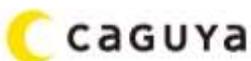
第30号

第45回保育環境セミナー後編

第31号

いきものいっぱい藤崎農場

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。